江東区役所２階「こうとう情報ステーション」文化財係展示（期間：令和６年６月）

江東区指定文化財紹介

江東区指定有形文化財（建造物）

和倉橋親柱　２基

和倉橋は、関東大震災後の復興事業の一環として架けられた「震災復興橋梁」のひとつです。昭和４年（1929）７月に油堀川に架けられました。昭和50年に油堀川の埋め立てにより、橋は撤去され、親柱２基は現在の位置へ移されました。

和倉橋親柱　２基について

親柱（南詰親柱・北詰親柱）は、首都高速９号深川線の高架下の道を挟んで南北に置かれています（「位置図」参照）。

親柱は上中下三段の本体と台石で構成されています。この親柱の特徴として、側面に見られる放物曲線状のデザインがあげられます。これは大正期に流行した建築様式、表現主義の影響と考えられます。

和倉橋親柱　２基関係図

油 堀川跡　　埋め立てられた場所には首都高速９号深川線が建設されました。

現存する親 柱　　南北に１基ずつ残されています。

和倉橋（わくらばし）　南詰親柱（みなみづめおやばしら）

和倉橋（わくらばし）　北詰親柱（きたづめおやばしら）

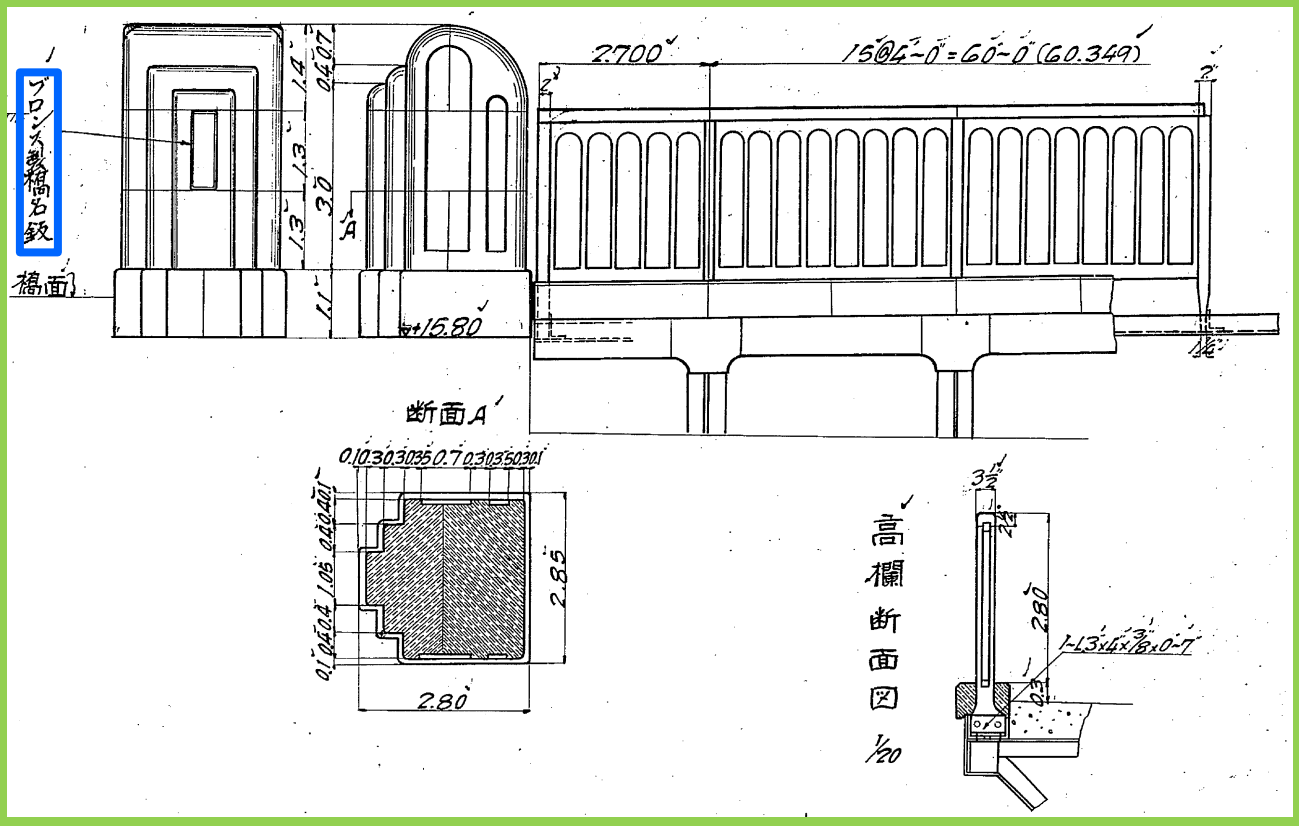
和倉橋（わくらばし）　南詰親柱（みなみづめおやはしら）　右側面（みぎそくめん）

「震災復興橋梁図面　901枚」

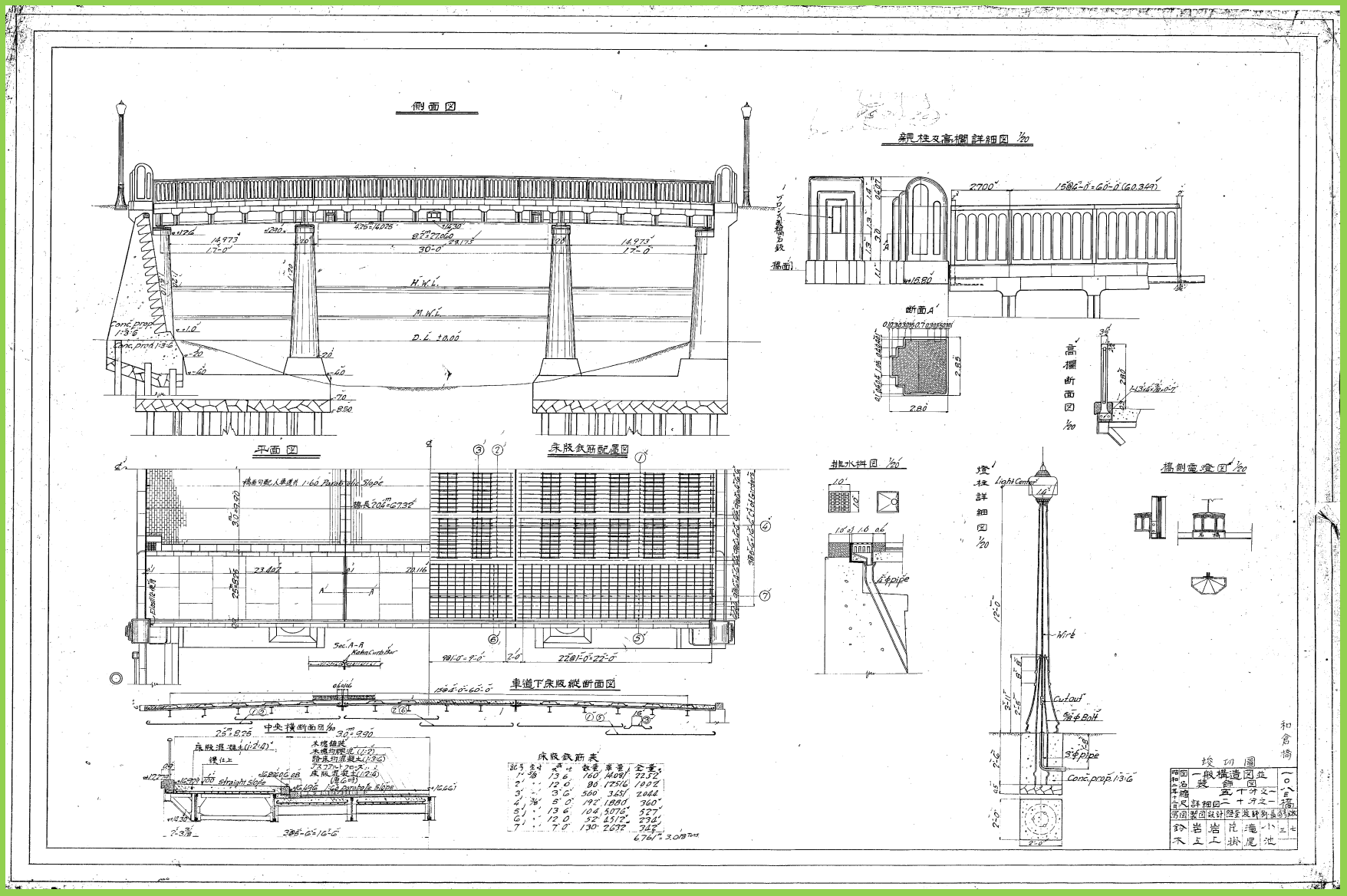
〔江東区指定有形文化財（歴史資料）〕について

現在、震災復興橋梁は河川・堀の埋め立て、耐用年数や耐震上の問題から、撤去、架け替えが進められており、建設時の状況がわかりにくくなっています。

和倉橋も同様ですが、建設当時の図面（下図）には、親柱・欄干などが描かれており、当初、親柱にブロンズ製の橋名板（現在は鉄製）が付けられていたことがわかります。



「和倉橋　一般構造図　並　装飾図」



和倉橋（わくらばし）　一般構造図（いっぱんこうぞうず）並（ならび）装飾図（にそうしょくず）

（「震災復興橋梁図面（しんさいふっこうきょうりょうずめん）　901枚（まい）」の内（うち））